

「託送供給等に係る収入の見通し」の変更承認申請について

2023年10月17日

東京電力パワーグリッド株式会社

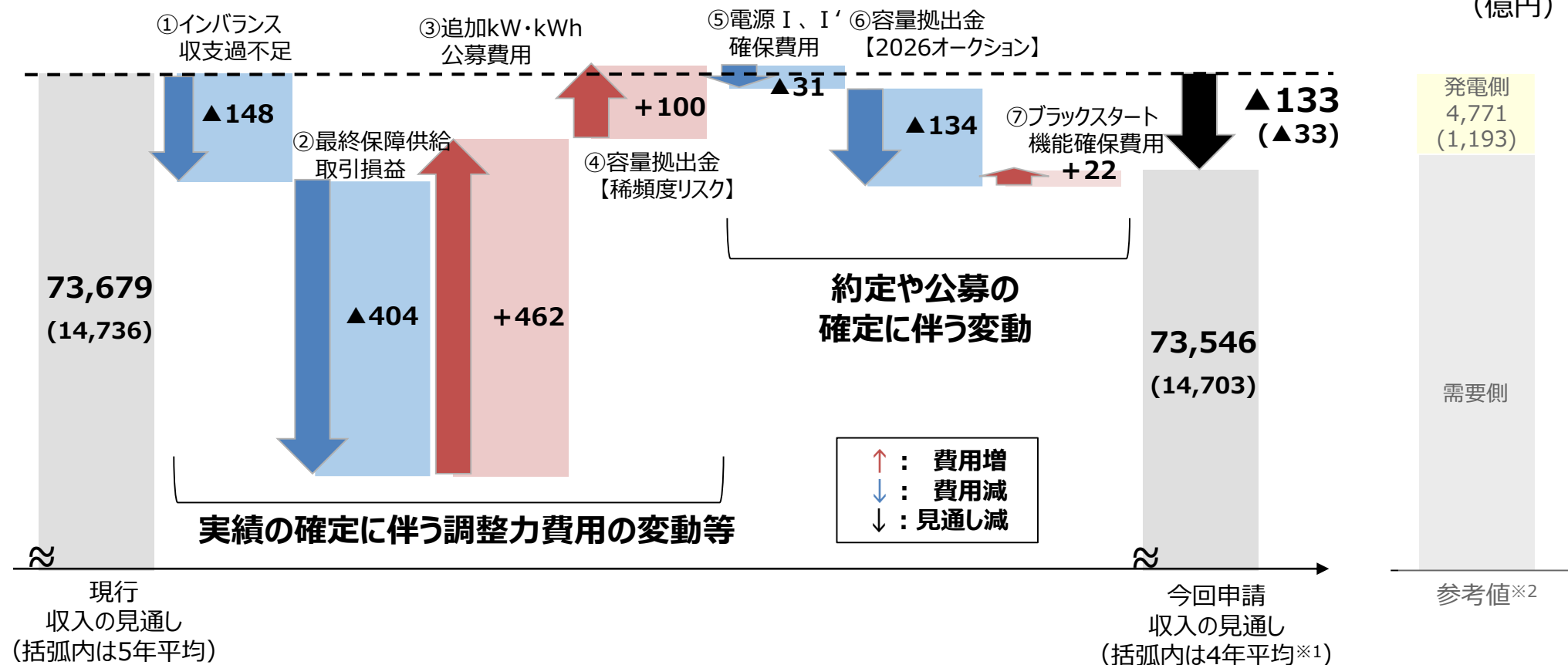


「託送供給等に係る収入の見通し」の変更承認申請の概要



- 今般の「託送供給等に係る収入の見通し」（以下、「収入の見通し」）の変更承認申請は、2024年度から発電側課金制度が導入され料金体系の見直しが必要となることを踏まえ、外生的な費用変動について、実績等が確定したことにより収入の見通しへの反映が可能となった項目の変動を期中で反映するものです。
- 第1規制期間の収入の見通しは、**現行7兆3,679億円と比べ▲133億円減の7兆3,546億円**（5年合計）となります。これによる2024年度以降の影響額は**▲33億円／年**（4年平均※¹）となります。

（億円）



※¹ 今回の申請による第1規制期間中の増減額を4年（2024～2027年度）で除した額。

※² 2022年6月時点の仮定等を踏まえ算定した単年度ベース試算値（第46回料金制度専門会合事務局資料に掲載）をもとに、イメージを掲載したもの。
数値は4年合計（2024～2027年度）のもの。また括弧内は4年平均。

(参考) 収入の見通しに反映した増減項目について



- 収入の見通しに反映した外生的な費用変動の概要等は下表の通りです。

(億円)

区分	増減項目	概要	反映内容	増減額
実績の確定に伴う調整力費用の変動等	① インバランス収支過不足	発電事業者さまや小売事業者さまの計画と実需給の差により生じた電気の過不足（インバランス）の調整に伴う損益	2022年度実績を反映	▲148
	② 最終保障供給取引損益	お客さま（需要家）が小売事業者さまと契約に至らなかった場合に、当社が一時的に供給を担う最終保障供給の損益		▲404
	③ 追加kW・kWh公募費用	電力需要が高い夏季・冬季において、追加的な供給力および電力量を確保するための費用		+462
	④ 容量拠出金【稀頻度リスク】	容量拠出金のうち、厳気象時に生じる電源脱落等のリスクに対応するための費用	新たに整理された稀頻度リスク対応分を反映	+100
約定や公募の確定に伴う変動	⑤ 電源Ⅰ、Ⅰ'確保費用	当社がエリアの周波数・需給バランス調整を行うために調達する調整力費用	2023年度向け公募結果を反映	▲31
	⑥ 容量拠出金【2026オークション】	容量市場において将来の供給力を確保するために小売事業者さまおよび当社が電力広域的運営推進機関を通じて発電事業者さまに支払う費用	2026年度向け容量市場オークション約定結果を反映	▲134
	⑦ ブラックスタート機能確保費用	電力系統の全停電時に備え、ブラックスタートに必要な電源を予め確保するために必要な費用	2023、2026年度向け公募結果を反映	+22
合計 (括弧内は4年平均※)				▲133 (▲33)

※ 今回の申請による第1規制期間中の増減額を4年（2024～2027年度）で除した額。